

○杜仲軒赭鞭夜話 (十四)

久 内 清 孝

●鳳梨ノきちがひ

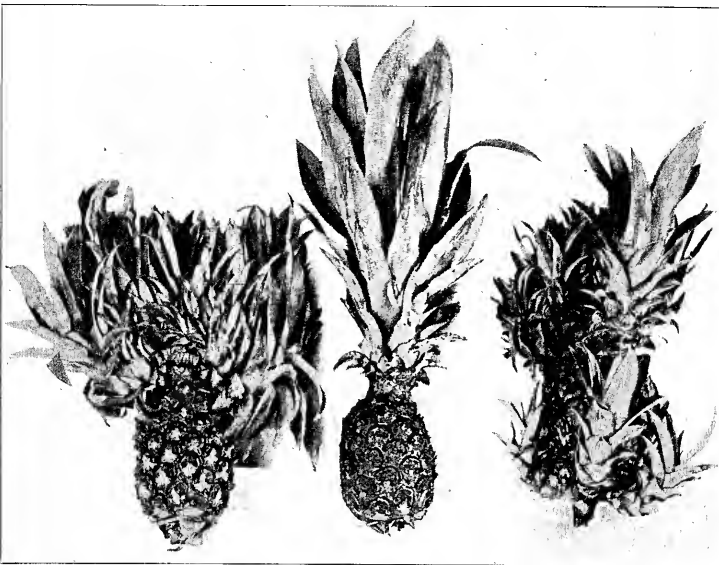
コンドコノ度生レテ始メテ東京府下ノ小笠原島へ洋行仕レル折リ見馴レヌ果物ヲ並ベタル八百屋ノ軒端シヲ窺ヒタルニ鳳梨 (Ananas comosus Merr. = *A. sativus* Schurr. f.) ニ三ツノ形テアルヲ見出シ大枚十六錢ヲ投ジテ買占メ横濱著早々清水満壽美君ヲ煩ハシテ出来タノガコノ寫真デアル、中央ナルハ正形デアルハ言フマデモナシ其右ナルハ上下ヨリ多クノ分枝ヲシテ居リ左ナルハ帶化ヲ起シテ居ル、右ハ鳳梨ヲ功利的ニ見ルナラバ有害無益ナ現象デ其ノ爲メ果物トシテハ其値打全ク○デアルガ好事家ニハアナガチ面白クナクハナイ

豊島營林署長ノ話ニヨレバ鳳梨ハ先端ノ苗條ハ早く切り去ルトキハ僞果ノ部分ハ一層肥厚シ商品トシハ優良ナモノトナル由、サレバ此ンナニナツテハ液汁モ少ク殆ンド食用ニハナラナイ位デアル、イカサマ布哇ナドノ鳳梨園ノ圖ヲ見ルトコンナモノハ一ツモ見當ラナイ、マタ内地デハコノ苗條部ヲ土ニ預ケテモ結果ハ多クハヨクナイガ小笠原デハ之ヲ地中ニ挿シテオケバ根ヲ發シ生長スル由デアル、別ニ珍ラシクモナイガ同行ノ土佐人伊藤洋君ガ國へ土産ニ買ツタ位ダカラ内地ノ人ニハ見セテモヨカロウト思ヒ記スコトニシタ

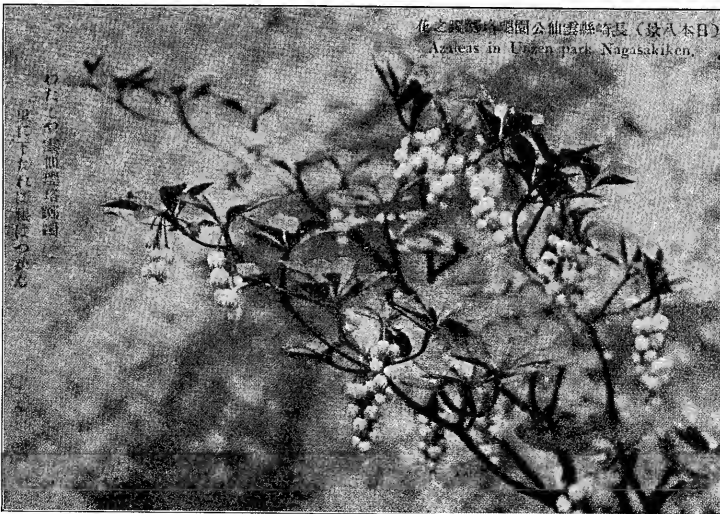
●雲仙瓔珞躑躅辨證

わたしや雲仙瓔珞躑躅 里にくだれば根はつかん

昨年六月九州温泉嶽ニ登ラレシ友人小林勝美君カラ寫真ノ通りノ *Enkianthus* ノ三色版ノ多はがきヲ送ラレタ、其はがきノ一部ニハ横書キデ「(日本八景) 長崎縣雲仙公園瓔珞躑躅之花」ト印刷シアリ更ニ其英譯トシテ



自分ガ小笠原島カラ携ヘ歸ッタ鳳梨ノ三ツノ形
(清水南壽美君撮影)



佐々木園長雲仙公園之花
Azaleas in Uzen park, Nagasaki.

わたしの雲仙公園の
見下すなれば、
花の影の光る

雲仙環珞躑躅ノ繪はがき(原ト三色版、少シク縮小)

Azaleas in
Uzen park
Nagasaki-
ken トアル
實ニ鄭重ヲ
極メタ印刷
ダ、マタ花
ハ淡黄色デ
現ハシテ左
側ニハ右ノ
ヤウナ句マ
デ添ヘテア
ル、シテマ
タ其句ノ文
學的價值モ
サルコトナ
ガラ、マヅ
第一ニ困ラ
セラレタコ

トハゑはがきデ見レバ *Enkianthus* デアルノニ説明ニヨレバ *Menziesia* ト解サナケレバナラズ英文デハつゝ、
 じト見ナケレバナライノデ温泉ノ煙ニマカレタ氣ガシタガ數日後差出人ガ記念ニ手折ッテ來タ實物ヲ見タラ
 疑フベク餘リニタシカナ *Enkianthus cernuus* Benth. et Hook. f. var. *typica* Maxim. (しろどうだん) ト
 判明シタ、實ニ言語どうだんデアルマヽニ記シテ各位ノオ笑ヒノタネニモト思ヒツキ一言駄ベウシテ頂クコト
 ニシタ

○伊勢ノ本草家松本駝堂

大西源一

【牧野云フ】本篇ハ大正十四年乙丑一月發行ノ雜誌『集古』乙丑第一號ニ登載セラレタモノデアルガ此『集古』ハ我等社會ニハ覽ル人極メテ
 寡キユエ今筆者大西君ノ許諾ヲ得テ再ビ之レヲ本誌ニ掲ゲ以テ弘ク我が植物學仲間ノ人々ニ示ス事トシタ、ソシテ此大西君ノ小照ハ今回私ガ
 此ニ之レヲ挿入シタ

伊勢ニハ本草學者トシテ名ヲ知ラレタガ多イ、松坂ニ丹羽正伯アリ津ニ岡安定、川喜田政明アリ山田ニ春木象
 軒アリ相可ニ西村廣休アリ龜山カラハ近世本草學界ノ巨人飯沼慈齋ヲ出シ多氣郡波多瀬カラハ野呂元丈ヲ産ン
 ダ、玆ニ述ベヤウトスル松本駝堂ノ如キモ亦其ノ一人デアル、由來本草學ハ空理空論ヲ事トスル學問デハナイ
 其ノ研究ノ對象ハ常ニ實物デアル山野ヲ跋涉シテ研究材料ヲ採集スルニシテモ標本ヲ備ヘ付ケルニシテモ少カ
 ラヌ費用ト時間トヲ要スル從テ之ガ研究家ハ生活ニ餘裕ノアルコトヲ必要條件トスル古來富豪ノ多イ伊勢ノ地
 カラ本草學者ヲ輩出シタコトハ大ニ理由ガアル

先頃ノ御大典ニ際シ多氣郡出身ノ野呂元丈先生ガ正五位ヲ贈ラレタ、コレガ伊勢ノ本草家デ贈位ノ恩典ニ浴シ
 タ最初デアル、元丈ト略ボ同時代ニ松坂ニ松本駝堂翁ガ居タ、元丈先生ノ傳ハ先年我輩ガ『三重縣史談會志』
 ニ掲載シタモノガアリ三重縣カラ出シタ『先賢遺芳』ノ内ニモ載セラレ近頃大分世間ガ注意スル様ニナツタガ